

## 議長記者会見（第42回）会見録

日時：令和4年6月21日（火）

午後2時45分から

場所：石川県議会議事堂

議長応接室



会見を行う石田議長（右）と不破副議長（左）

ご苦労様です。

一昨日から、珠洲市で2度も大きな地震が発生しました。

この一連の地震により被害に遭われた方にお見舞い申し上げます。

15年前発生 of 能登半島地震の教訓を生かし、我々議会としても 最新の情報を今後も注視し、知事・執行部と連携を図りながら、適時適切な対応が図られるよう、取り組んで参りたいと思います。

それでは、議長就任から4か月、議長として定例会を終えての所感を述べさせていただきます。

今年の2月18日に、伝統ある石川県議会の第104代、また、20年ぶり2回目の議長

に就任いたしましたから、4か月が経過いたしました。

今定例会は、議長就任後最初の定例会であり、緊張感をもって臨んだところでありますが、先ほど閉会し、議長としての役割を無事果たすことができたことに、まずは執行部や議員の皆さんをはじめ関係各位に感謝を申し上げる次第であります。

今年の当初議会は、知事選挙を前にして予算も準通年型でありましたが、今定例会には、コロナ対策はもちろんのこと、喫緊の課題である経済対策のほか、北陸新幹線県内全線開業に向けて開業効果の最大化を図るための施策など、馳知事の下、政策的な肉付けがされた、400億円を超える大型の補正予算が提案されました。

我々議会としても、県民の安全で安心な生活と本県の更なる発展に向け、執行部としっかりと議論を積み重ね、先ほど本会議で可決いたしましたところであります。

また、本日、前石川県知事谷本正憲氏を、石川県名誉県民として選定することへの同意を求める議案が可決されました。谷本氏は、知事として7期28年にわたり、質の高い文化など本県の個性の磨き上げや、陸・海・空の交通基盤の整備を進めるなど、本県の発展に御尽力され、その業績は、誠に卓越したものがあり、名誉県民にふさわしいと感じております。

さらに、先ほど、知事から提案があり、可決いたしました、副知事に西垣淳子氏を選任する同意についてであります。馳知事の下、徳田副知事とともに県政の発展に手腕を発揮していただけるものと大いに期待をしております。

今後も、常に県民に思いをはせながら、議長の職務を全うしてまいりたいと思っております。

次に、今定例会を振り返ってであります。

今定例会では、まず、若者のワクチン接種への対応をはじめとしたコロナ対策と経済回復に向けた対策について、多くの議論がなされました。

先月26日の開会日に事業復活支援金の拡充について他の補正予算案と分けて議案が提出されました。県議会としてもコロナ禍の長期化に加えて、原油価格等の高騰で経済の再生はまったなしの状況であり、事業者に速やかに支援をする観点から、初日採決をいたしましたところであります。

県議会としても、引き続き、感染防止対策を図りながら社会経済活動を正常化させていくための様々な施策が、機を逸することなく実行できるよう、知事・執行部と連携を図りながら、県民の安全と安心な生活に向けて、全力で取り組んでいきたいと思っております。

コロナ関係の他では、馳知事にとって、初の定例会であったこともあり、知事の政治姿勢に関係した質問が多数ありました。

前知事からの継承である西部緑地公園の再整備などの大型プロジェクトの方向性や、成長戦略や知事公舎の活用など選挙公約で掲げた項目と関連した質問も多くありました。

知事は、その一つ一つに対し、丁寧にお答えしておりました。

また、知事は文部科学大臣も務めた経歴もあり、造詣が深い、学校教育に関して、教員の多忙化改善や教員免許制度などの質問や、スポーツ振興に関して、選手の育成、障害者スポ

一ツなど、そして、少子化対策や子育て支援についても、多くの質問があり、原稿を見ずに答弁した場面もありました。

そのほかでは、能登の産科医不足への対応や、近年能登で頻発している地震も含めた震災・減災対策、トキの放鳥について質問があり、私自身が能登の出身であることもあって、その対応は特に関心を持って聞いておりました。

ほかにもカーボンニュートラルへの対応や、農林水産物のブランド化対策など多岐に渡り議論がなされました。

執行部においては、今定例会での議員からの質問の趣旨を踏まえた上で、施策の実行に取り組んでいただきたいと思います。

また、今定例会中に可決された意見書についてであります、「意見書等調整会議」におきまして、調整等された結果、各会派から提案のあった7件の意見書のうち、「地方たばこ税を分煙環境整備に活用できる制度の創設を求める意見書」など4件が可決されました。

可決された意見書4件については、議会としていずれも国へ要望するものであり、国会及び関係行政庁へ提出することとしております。

次に、議員定数の見直しについてであります。

昨年6月に設置された議会議員選挙区・定数検討懇談会では、8回にわたって慎重な審議が重ねられ、6月7日に加賀市選挙区と羽咋市羽咋郡南部選挙区の議員数をそれぞれ1人減らし2人と1人とし、総定数を現在の43人から2人減らし、41人とする答申を受けました。

本日の本会議で、この改正条例案が提出され、賛成多数で可決されました。

議員定数については、地域ごとの多様な県民の声をより多く、きめ細かく県政に反映させるため、一人でも多くの議員が必要であるとの考えもある中、1票の格差の是正や逆転現象を解消するため、議会として身を切る覚悟で臨んだ結果であると考えております。

次に、「ふれあい親子県議会教室」の再開についてであります。

議会の広報広聴活動の一環として、平成26年度から開催し、大変好評を得ております「ふれあい親子県議会教室」を再開いたします。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する観点から、令和2年度と昨年度は中止いたしました。3年ぶりの開催となります。

今年度は、8月9日と10日、2日間の開催を予定しており、将来の有権者となる小学生と、その保護者に、議員との交流や議場探索を通じて、議会の役割や仕組みを楽しく学んでいただきたいと思います。

最後に、委員会行政調査の再開についてであります。

県議会では、委員会審査の参考とするため、各委員会において行政調査を実施しておりますが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況に鑑みて、令和2年度以降、感染拡大防止の観点から、実施を控えることとして参りましたが、感染状況が落ち着きを見せ始めてきたこと等を踏まえ、県内の行政調査については、再開することといたしました。

私からは、以上であります。

<質疑応答>

記者

地震の関係で、馳知事は、数日中に現地に視察に行かれるという話をされておりました。議会の場合は、現地に地元の議員の方がおられて、情報については入ってくると思うんですけども、大規模な地震なので、必要な支援は多岐にわたると思います。そういった中で、県議会として何か対応と申しますか、必要と考えていらっしゃるということについてお聞かせください。

石田議長

地震というのはいつ何時起こるかわからないもので、そう考えますと、絶えず注視しながら、地域のいろいろな状況を判断して、みなさん方と相談しながら、地震のあったところに行けることは精一杯いろいろとやるのが大事であると思っております。

特に、15年前も能登地震がありました。私は震源地に近かったのですが、あのときの地震と比べて「6強」と「6弱」であんなに違うものか、と思いました。今年にはいって能登では80回、90回も小さな地震が起きています。その辺は専門家の方にもっと調べていただいて、対策について議会も執行部とともに考え、地域の方々と話をしていきたいと思っております。

記者

ありがとうございました。

以 上